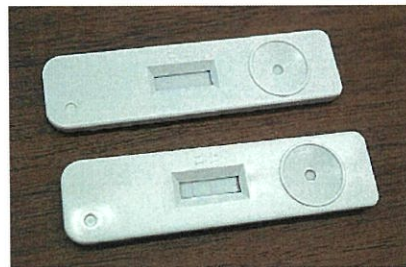


サツマイモ 茎根腐細菌病

1次検査に簡易キット



茎を処理液の入ったスポイトに入れて軽くもみ、専用プレートに垂らす(いずれも宮崎県で)



陽性の反応が確認された専用プレート①は特定の赤線が浮かぶ

温暖化や人・物の行き来が増加などで新たな病害虫リスクが高まる中、農水省は、予防・予察に重点を置く総合防除の新たな実践指針を公表した。予防・予察の取り組みは生産現場でも始まっている。宮崎県では、簡易キットによる早期診断でサツマイモ茎根腐細菌病のまん延を防ぐとしている。

ひそかに進行…まん延防げ

宮崎で取り組み

焼酎メーカー最大手の霧島酒造(宮崎県都城)は、高品質な焼酎の安定出荷のため、農家への原料となるサツマイモの健全苗出荷や生産状況の把握に力を入れている。7年前のサツマイモ基腐病の発生を受けて、健全苗生

産施設を新設した。同病は株が立ち枯れて塊根が腐敗する病気だ。そして、新たな別の脅威も出始めた。サツマイモ茎根腐細菌病だ。「ひそかに進行して

いる感じの嫌な病気だ」。同社酒質開発本部研究開発部醸造原料研究課の藤田剛嗣課長が話す。塊根が柔らかく腐敗し、健全部との境界が黒褐色になる。腐敗した芋は商品価値を失う。4、5年前から発生の報告が増え、今年も昨年以上に多発している。藤田課長によると、同病は基腐病

などと違い、葉に変化が出にくいため発覚が遅れる。感染株も葉は青々としており、収穫するまで農家は気づきにくい。「土を掘ると芋が溶けていて、初めて病気に気付く。農家の精神的ダメージが大きい」。普段は10畝当たり約3ト収穫する農家の収量が同約500キまで落ち込んだこともあった。

同県総合農業試験場の加治佐光洋氏も「とても難しい病気だ」と指摘する。菌自体は古くからあるが、大きな農作物被害の報告がな



葉は青々としているが、茎根腐細菌病疑いの株が見つかったサツマイモ畑

かったため研究実績が少ない。発病の原因や増加理由は判然とせず、現時点で登録農薬もない。多発を受け同県などでも研究が始まったばかりという。

感染疑いのある株を早期に見出すため、同社が小池化学(東京都墨田区)に相談して誕生したのが「サツマイモ茎根腐細菌病検査キット」だ。感染疑いのある茎や芋を処理液に浸して押しつぶし、専用プレートに滴下するだけ。特別な技術は不要で、屋外でも使用できる。

霧島酒造は、契約農家から同病感染疑いの報告があれば株を採取して検査をするが、診断に1週間以上要することもあった。キットを使えば、数分から十分で診断が可能だ。藤田課長は「似た症状の病気は複数あるため、最初に当たりを付けられるキットは1次検査として使える」と話す。産地が安心してサツマイモが作れるよう、研究機関などと発生原因などの調査を急ぐ。(南徳絵)